

富山県小矢部市

石名田木舟遺跡発掘調査報告書

－農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査－

桜町遺跡発掘調査報告書

－道の駅整備事業・誘導案内板設置に伴う埋蔵文化財調査－

2010年3月

小矢部市教育委員会

例　　言

1. 本書は、富山県小矢部市地崎地内に所在する石名田木舟遺跡、同じく桜町地内に所在する桜町遺跡座田地区の各々で実施した本発掘調査の発掘調査報告書である。
2. 調査は小矢部市教育委員会が委託を受けて実施した。その詳細については、以下のとおり表で記す。

内容\遺跡名	石名田木舟遺跡	桜町遺跡
委託者	小矢部市農林課	小矢部市商工観光課
調査原因	農道整備	道の整備建設に伴う誘導案内板設置
現地調査期間	平成21年8月3日～平成21年8月6日	平成21年5月25日～平成21年5月28日
発掘面積	150 m ²	36 m ²

3. 本書の作成費については、委託者2者と協議し貢献で按分し、合本することにより経費削減を図ることで合意を得た。
4. 調査主体は小矢部市教育委員会である。発掘調査担当者は下記のとおりである。
総括：文化スポーツ課　課長　谷底秀次、　主務：同課　主任　中井真タ
現地発掘調査参加者　富山県シルバー人材センター連合会会員、浅井誠、野沢世江
5. 本書の編集・執筆は、小矢部市教育委員会文化スポーツ課職員の協力を得て、中井が行った。
6. 本書の例・写真図版の表示は次のとおりである。
 - 1) 遺構番号は、調査現場で付した番号である。番号は遺構の種類に関わらず連番号とした。
 - 2) 遺構の略号は、SD：川・溝、SK：土坑、P：柱穴である。
 - 3) 本書で示す方位は全て磁北で、水平基準は海拔高である。
 - 4) 遺構図の線尺は各々とし、遺物図には1/3と1/4がある。
 - 5) 遺物以外の写真図版は全て任意である。
7. 出土遺物と調査に関する資料は、小矢部市教育委員会が一括して保管している。
8. 発掘調査中および報告書作成中、関係者および関係機関から多大な御教示・御協力を得た。記して謝意を表したい。

目　　次

石名田木舟遺跡	1～6
I　序章	1
II　調査成果	3
表1、図版（第1図～第5図）、写真図版1～写真図版3	
桜町遺跡	9～13
I　序章	9
II　調査の成果	11
表2、図版（第6図～第10図）、写真図版4～写真図版8	
抄録	

石名田木舟遺跡

I 序章

1 遺跡の位置と歴史的環境

石名田木舟遺跡は、富山県小矢部市地崎地内に所在する。小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県に隣接する。市域は三方を低丘陵の山に囲まれ、東側は広大な庄川扇状地へと開いている。中央を北流する小矢部川はその支流である子撫、渋江川の流れを集め、良好な沖積地を形成しながら日本海へと注いでいる。この小矢部川の水運や石川県との境をすく砺波山丘陵の俱利伽羅峠を抜ける北陸道に開通して、多くの遺跡が遺存している。

石名木舟遺跡は、小矢部川と砌波平野を貫流する庄川の扇状地に立地する。隣接する高岡市福岡町にまたがり、面積は、東西約900m、南北約900mと推計されている。

また、同遺跡周辺の五社地内に所在する五社遺跡では、条里型地割を示す溝が見つかっている。また、同地内には平安時代の文献『和名抄』にある砺波郡十二郷中の「長岡郷」の推定地、中世皇室御領の「糸岡庄」の所在がこのあたりを中心としたとされる糸岡神社が所在している。遺跡の範囲内には、木舟城跡が所在し、当時の繁栄が偲ばれる発掘調査結果が報告されている。

2 調査に至るまで



第1図 遺跡位置図 (1/30,000)

3 調査計画

調査地の形状が、縦26m×長さ2~4mの台形であることから、ベルトコンベアは設置せず、廃土は横置きし、できる限り調査面積を確保することに努めた。また、当該調査地の北東約50mに、県営ほ場整備事業の調査地A区が位置していることから、基準点については、小矢部市教育委員会で移動・設置し、経費の削減に努めた。調査体制は調査員1名、作業員10名で、調査期間は2週間で算出した。

4 調査の経過

今回の調査地の北東約50mに、高岡農林振興センターより委託された県営ほ場整備事業の本発掘調査地が位置しており、この調査の完了後、速やかに当該地の調査に着手した。当初より約1ヶ月早いが8月3日には、重機械により表土掘削を行った。その後、人力により掘削および精査を行った。その結果、遺物量は希薄であるものの中世の遺物包含層を確認し、遺構は調査地の南側でのみ検出した。当初10人の予定であった作業員を20人に増員し調査を行ったため、4日間で現地調査を終了するに至った。遺物整理作業は、全て小矢部市埴生地内にある「小矢部ふるさと歴史館」で行った。



第2図 農道整備計画図 (1/3,500)

II 調査の成果

1 概要

調査地は、南北方向に約26m・東西方向に約2~4mの面積で、南端は能越自動車道福岡ICへのアクセス道に接している。北東には平成20年度に建設された育苗施設があり、その建物に併設されたビニルハウス4棟は、北端に接している。西側は工事用道路が仮設されていた。

地表面から深さ50~60cmのところで中世の包含層であるII層上面にいたる。その上には、客土・耕作土などのI層が堆積する。IV層以下は灰色砂層が続き、人工的な形跡がないことを深堀りで確認した。

遺構は、III層上面で中世の土坑(SK)5基を検出した。SK Iは調査区の南端において検出し、その行方は調査区外へ進み、その規模は不明である。他の4基のSKについては同じく調査区の南側にて集中して検出したが、遺物なども出土せず、その性格や目的は不明である。遺物は、須恵器、土師器、株洲、中世土師器、漆器、近世陶器が出土している。

2 遺構(第4図)

SK 1 先述したが調査区の南端に位置し、その山端が調査区外へ延びるため、全体像や規模などは不明である。深さは40cmで、覆土からは、土師器や中世土師皿や漆器が出土している。川の可能性も考えられるが、覆土の状態から流れの様子が認められず、土坑とした。時期は出土遺物から中世であろう。

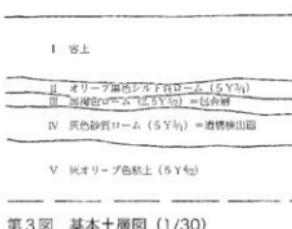
SK 2~4 調査区の南側に集中した状態で検出した。しかしながらその上層で、4基の土坑を含む周辺一帯では、近現代の搅乱土坑を検出しておらず、本来の形状は壊されているものと考えられる。それぞれの深さが6~15cmと浅いのは、上層の影響をであろう。したがって、周辺には、他にも遺構があった可能性も考えられるが、これより北側には遺構は検出できなかった。

3 遺物(第5図)

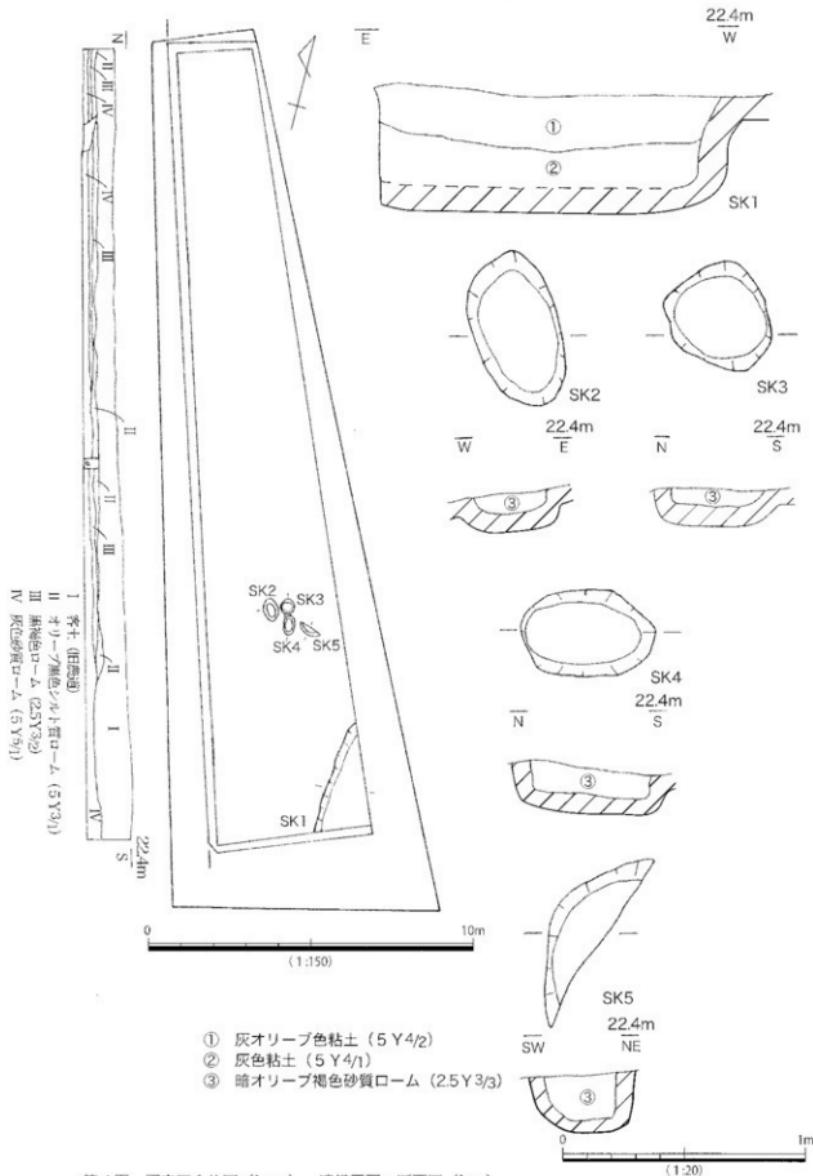
遺物は、ほとんどがSK 1からの出土である。ほかは表土中から出土したもので、時期はいずれも室町時代に属する。

表1 石名田木舟遺跡遺物一覧表

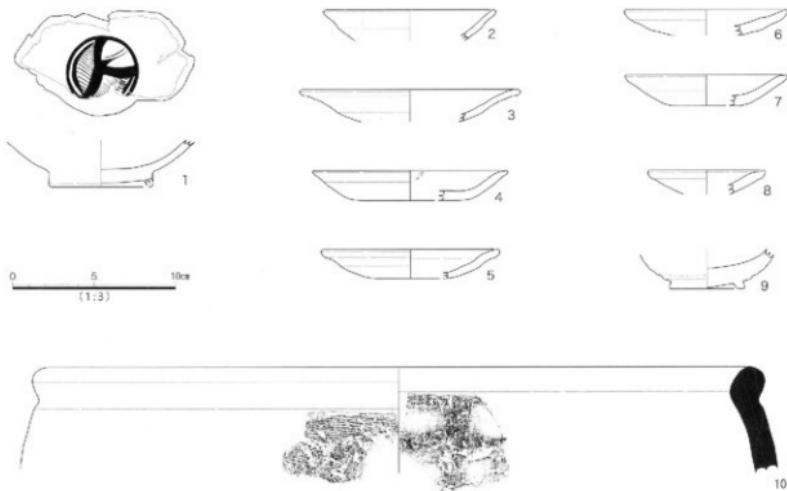
件号	種類	種類	出土場所・測定区・層位	大きさ	形状	時期
1	木製品	漆器柄	SK 1	直径6.1cm	内外黑色漆塗りに赤色墨で文様を描く。 朱刷後期	
2	土師器	皿	I区、V層	内径10.3cm	肩口クロ成形。口縁部はかくする。	x
3	x	x	I区、表土	口径13.2cm	x	x
4	x	x	II区、V層	口径11.8cm、底高1.85cm、底径7.5cm	x	x
5	x	x	II区、V層	口径10.7cm、底高1.8cm、底径4.0cm	x	x
6	x	x	I区、V層	口径9.8cm	x	x
7	x	x	x	口径9.8cm、底高1.9cm、底径5.1cm	x	x
8	x	x	x	口径7.0cm		x
9	唐津	柄	I区、表土	底径1.5cm	底部は丸く出し窓型。内外面取締輪軸。	江戸時代
10	珠	東	II区、II層	L径57.4cm	球形V字	宋元後期



第3図 基本土層図 (1/30)

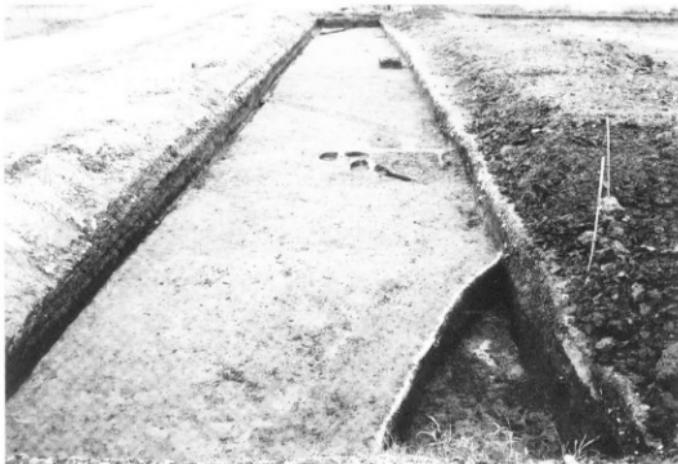


第4図 調査区全体図 (1/150), 造構平面・断面図 (1/20)



第5図 出土遺物 (1～9 : 1/3, 10:1/4)

0 10cm
(1:4)



写真図版1 調査区全景（南より）



写真図版2 遺構検出状況



写真図版3 出土遺物 (1/2)





桜町遺跡

I 序章

1 遺跡の位置

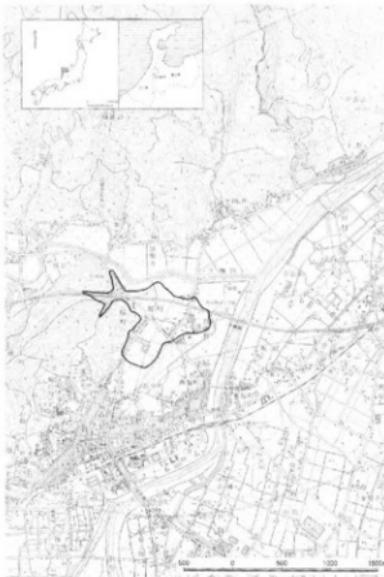
桜町遺跡は、富山県小矢部市桜町・西中野地内に所在する。小矢部市は、富山県の西端中央に位置し、石川県に隣接する。地形は、北・西・南の三方が丘陵性山地、東が平地、中央部が台地である。山地は、北部に市内最高所である稲葉山(標高347m)から宝達山に連なる丘陵地、西方に加越国境線をなす石動丘陵、南方には医王山の北側を占める蟹谷丘陵がある。東側には、庄川の堆積作用によって形成された砺波平野が広がる。砺波平野は、散居村の景観で知られている。中央の台地は、庄川と小矢部川が形成した河岸段丘である。小矢部川は、渋江川、子撫川などの各丘陵地から出る中小河川の流れを集めて、段丘と平地の境を蛇行しながら北流し、下流の高岡市伏木において富山湾へ注いでいる。

桜町遺跡は、小矢部川と子撫川の合流部から西、丘陵裾の河岸段丘上にあり、面積は、東西約1km南北800mの約60万m²推計されている。

桜町遺跡が位置する小矢部川左岸一帯は、地勢が比較的安定しており、旧石器時代から近代にまで及ぶ遺跡の密集地帯である。この密集地帯の北側に桜町遺跡は位置している。今回の調査地である産田地区を中心とした遺跡一帯には、土地の開発を契機に集落へと発展したことを示す条里地割が比較的良好に残っている。律令期には古代北陸道がこの地域を通過していたと考えられており、加賀の深見駅(石川県津幡町)から当地を通り、稲葉山の裾部を過ぎて伏木方面へ向かうものと考えられている。越中最初の駅「坂本駅」をこの地に比定する説もある。中世では『吾妻鏡』延安元年(1239年)の条にみられる東福寺領「宮島保」に比定されている。

2 調査に至るまで(第7図)

当該事業は、小矢部市道の整備にあたり誘導案内板設置に伴う埋蔵文化財調査である。当初から、周辺一帯に古代の遺構・遺物が濃密に遺存することが判っており、整備範囲を平成17年度に試掘調査、平成19年度に本発掘調査を実施している。今回の調査地は、工事計画上で縁地帯とするため、本発掘調査を実施していない範囲中に位置している。この計画については、平成20年度に小矢部市商工観光課より小矢部市教育委員会にもたらされ、協議の結果、平成21年度前半に調



第6図 遺跡位置図(1/50,000)

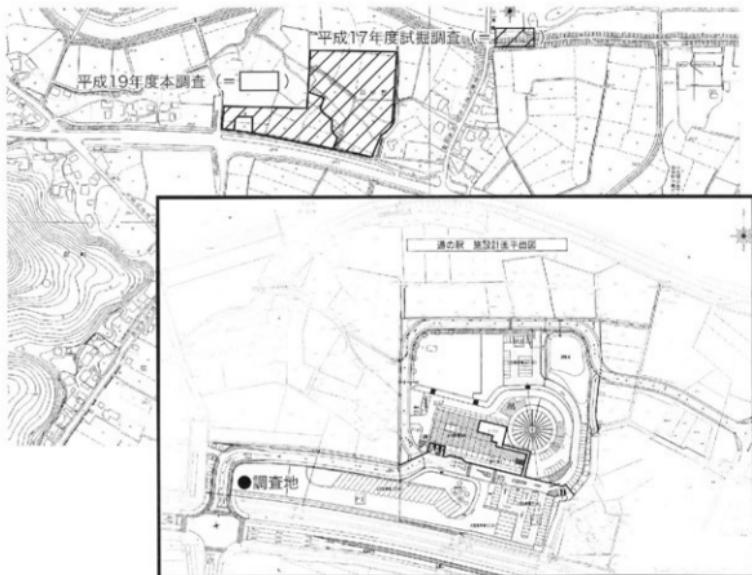
査を完了させることで合意した。

3 調査計画

調査地は、誘導案内板の設置に伴い掘削する範囲で、 $6\text{ m} \times 6\text{ m}$ の正方形を呈している。調査範囲や周辺の以前の調査結果より、ベルトコンベアを投入せず、廃土は横上げすることとし、測量に必要な基準点等は、工事用に設置されているものを利用した。調査体制は調査員1名、作業員4名で、期間は5日間で算出した。

4 調査の経過

調査は、周辺で道の駅の工事が進む側で5月25日より開始した。重機械により表土掘削をした際、調査区の南端で、平成17年度の試掘トレンチが現れたので、 $1\text{ m} \times 6\text{ m}$ の範囲については除外した。その後、人力により精査および遺構検出を行った。当該地の土質は非常に粘質性が強く、掘削および精査自体に、予想以上に体力と時間を奪われた。しかしながら、調査の結果、以前の調査で確認している古代の包含層を確認し、同時期の遺構を検出した。以前の調査結果から、本発掘調査が必要な範囲ではあるが、遺構の存在は希薄であろうと予測していたとおり、現地調査は4日間で完了できた。遺物整理作業は、全て小矢部市壇生にある「小矢部ふるさと歴史館」で行った。



第7図 道の駅周辺図と施設計画平面図

II 調査の成果

1 概要

調査地は、小矢部市道の駅建設予定地の緑地帯範囲にあり、南側には国道8号線が東西方向に貫通している。北東には、道の駅本体の建設工事中である。（道の駅は、平成21年10月21日オーブンした。）道の駅となる建物や施設のほか、周辺は水田や畠地である。

地表面から深さ80～90cmのところで古代の包含層であるIII層上面にいたる。以前の調査では、III層には40～50cmで到達する予定であったが、平成19年度の発掘調査後に、掘削はしていないが、盛土を20～30cm程度を乗せ、旧表土の上面を整地したようである。III層の上には、盛土、耕作土、I～II層が堆積する。III層と遺構検出面のV層の間に、IV層がある。

遺構は、V層上面で古代の土坑・穴（SK・P）を6基検出した。SK1は調査区断面にかかり、本来の規模は不明である。また、限られた面積の中で検出した他の5基のSKについても、平成19年度の本発掘調査の遺構の分布状況なども照らしても、その性格や目的は不明である。遺物は、須恵器、土師器、製塙土器が出土している。

2 遺構（第9図）

SK1 調査区の北東端に位置し、北壁および東壁にかかる。規模は不明確であるが、深さは24cmで、覆土から土坑であると判断した。共伴する遺物はないが、上層が古代の遺物で覆われており、擾乱の痕跡もないため、古代の範疇の遺構であろう。

SK3・4、P2・5・6 P6は調査区の西端に位置し、それ以外の4基は調査区の中央部に寄っている。共伴する遺物ではなく、SK1と同様に上層の状況から、古代の遺構であると考えられる。規模は以下のとおりである。

遺構番号	形状	規模（長軸、短軸、深さ）cm	遺構番号	形状	規模（長軸、短軸、深さ）cm
SK3	円	50, 50, 24	P2	円	18, 18, 10
SK4	円	42, 40, 26	P5	円	20, 18, 14

P6 楕円

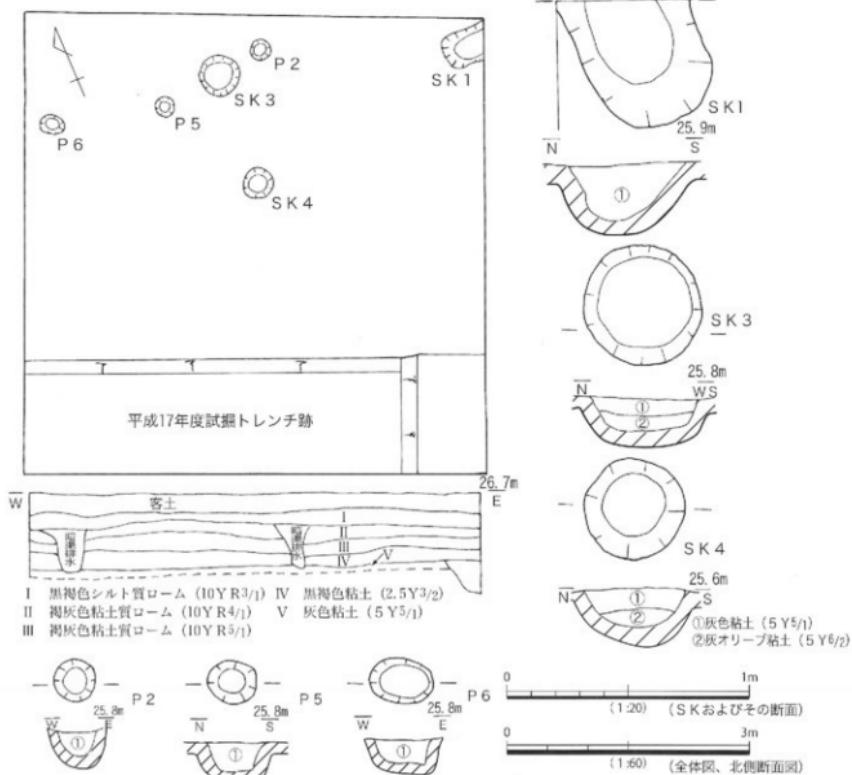
26, 20, 10

3 遺物（第10図）

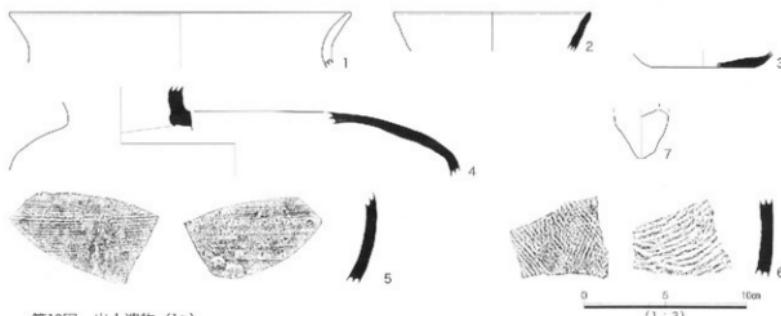
遺物は全て包含層からの出土である。残存状態が良いもののみ掲載した。1は古墳時代の土師器甕である。そのほかの遺物は、概ね奈良～平安時代のものである。

表2 桜町遺跡遺物一覧表

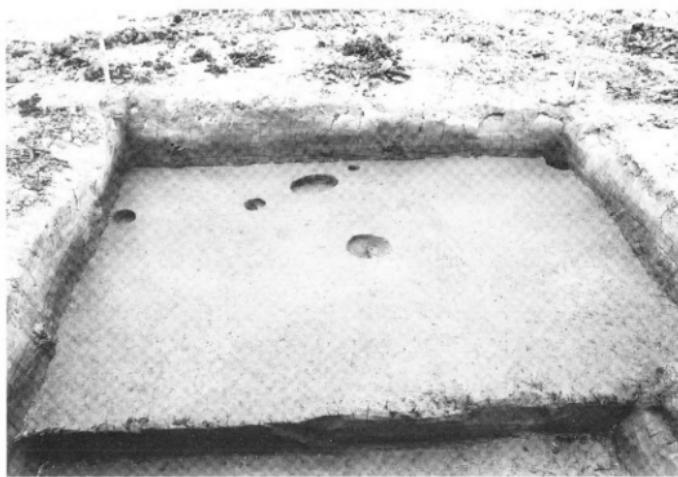
件名	種類	器種	出土遺構・地区・層位	大きさ	性質	時期
1 土師甕	甕	壺	出土10.8cm	口径部が「く」の字状に外反する。	古墳時代	
2 瓦窯器	杯	口	口径12.0cm	内側を開く。	平安前編	
3 #	#	#	底径16.3cm	底部はハサ切り。	#	
4 #	平瓶	#		平底の瓶詰～瓶底。	奈良～平安	
5 #	甕	#		瓶詰の瓶底片。	奈良～平安	
6 #	壺・甕	#		壺・甕の瓶底片。	奈良～平安	
7 千石器	製塙土器	#		堆狀大型型、褐色	飛鳥	



第9図 調査区全体図・北側断面図(1/80)、遺構平面・断面図(1/20)



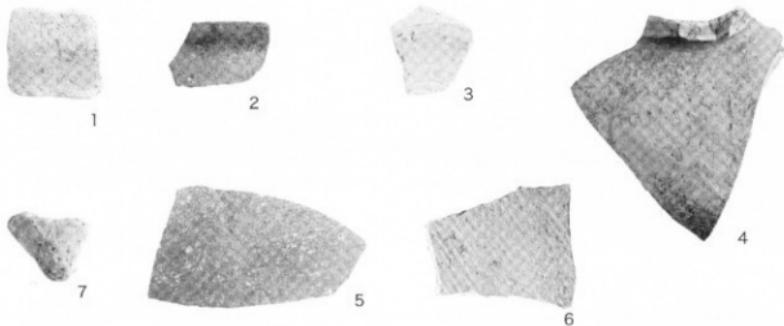
第10図 出土遺物 (1/3)



写真図版4 調査区全景（南より）



写真図版5 表土除去作業：左、遺構掘削状況：右



写真図版8 出土遺物（1/2）

報告書抄録

ふりなが	いしなだきふねいせきはつくつちょうさほうこくしょ さくらまちいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	石名田木舟遺跡発掘調査報告書 桜町遺跡発掘調査報告書							
副書名	農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査 道の駅整備事業・誘導案内板設置に伴う埋蔵文化財調査							
シリーズ名	小矢部市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第67冊							
編著者名	中井真夕							
編集機関	小矢部市教育委員会							
所在地	〒932-8611 富山県小矢部市本町1番1号							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりなが 所収遺跡名	ふりなが	コード		北緯	東経	調査期間 (西暦)	調査面積 m ²	調査原因
	所在地	市町村	遺跡番号	°	°			
いしなだきふね 石名田木舟	おやべ市 小矢部市 じさき 地崎	16209	209169	36° 41' 21"	136° 54' 25"	20090803～ 20090806	150	農道整備事業 に伴う埋蔵文 化財調査
さくらまち 桜町	おやべ市 小矢部市 さくらまち さんでん 桜町 産田	16209	209021	36° 41' 21"	136° 52' 32"	20090525～ 20090528	36	道の駅整備事 業・誘導案内 板設置に伴う 埋蔵文化財調査
所収遺跡名	種別	上な時代	上な遺構	上な遺物	特記事項			
石名田木舟遺跡	散布地	中世	土坑、柱穴	須恵器・土師器 珠洲・中世土師器 漆器・近世陶器				
桜町遺跡	散布地	奈良・平安	土坑	土師器・須恵器				

小矢部市埋蔵文化財調査報告書第67回

富山県小矢部市

石名田木舟遺跡発掘調査報告書

—農道整備事業に伴う埋蔵文化財調査—

桜町遺跡発掘調査報告書

道の駅整備事業・誘導案内板設置に伴う埋蔵文化財調査—

発行日 平成22年3月31日

編集・発行 小矢部市教育委員会

〒932-8611 富山県小矢部市木町1番1号

TEL 0766-67-1760

印 刷 ヤマシナ印刷株式会社

